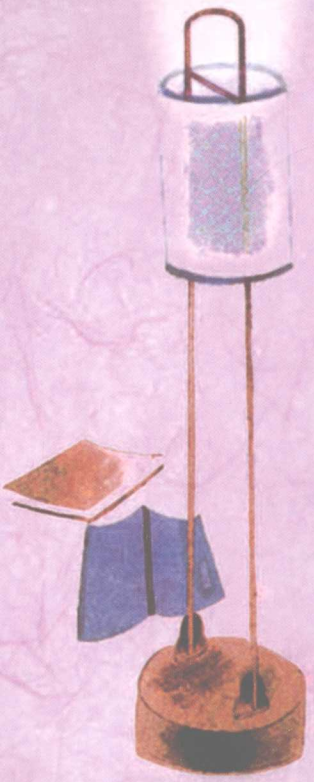
高等学校日语教材

新编日本文学史

崔香兰　张蕾　编著　横山邦治　主审

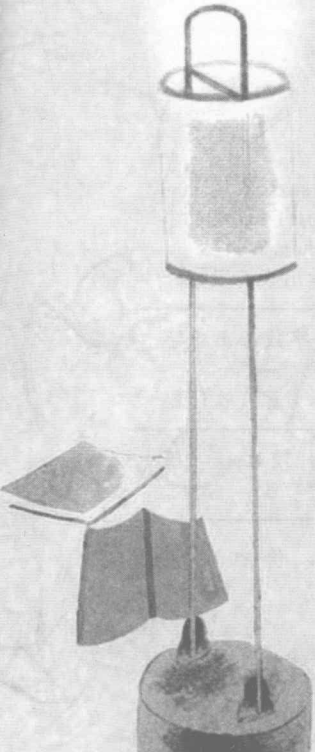


大连理工大学出版社

高等学校日语教材

新编日本文学史

崔香兰　张蕾　编著　横山邦治　主审



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日本文学史/崔香兰,张蕾编著. —大连:大连理工大学出版社,2009.7
高等学校日语教材
ISBN 978-7-5611-4921-8

Ⅰ.新… Ⅱ.①崔…②张… Ⅲ.文学史—日本—高等学校—教材—日文 Ⅳ.I313.09

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 101539 号

大连理工大学出版社出版
地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023
发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466
E-mail:dutp@dutp.cn URL:http://www.dutp.cn
大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm×203mm 印张:10.25 字数:256 千字
印数:1～1000
2009 年 7 月第 1 版 2009 年 7 月第 1 次印刷

责任编辑:王佳玉 张 凡 责任校对:李 捷
封面设计:季 强

ISBN 978-7-5611-4921-8 定 价:20.00 元

序 文

十年余り以前、大連の或る大学に、日本語教師として赴任した時、「日本文学史」の講義を命じられ、中国の日本文学史のテキストを探したのですが、適当な物が見当たらなくて、日本の大学には文学の通史の適当なテキストがない事もあって、止む無く高校の日本文学史のテキストをコピーして、講義をした記憶があります。

日本の文化は月光文明と呼ばれる事もあるのですが、それは中国や西欧の文明の光を太陽のようにして、その陽光を反映するだけの月光のような物が、日本の文化だと言うのです。文学もその通りで、上代から明治までは中国の文学の影響のもとに日本文学は書き継がれ、南蛮渡来の中世末期以降は西欧の文化の影響を幾らか受けながら、明治以降はどっぷり西欧文学の影響のもとに日本文学は書き継がれていて、その結果現在の日本文学が形成されているのです。

そうであるならば、中国の研究者の目で見た日本文学史が書かれると、非常に優れた独自性のある物が出来上がる筈です。アメリカ人のドナルド・キーン氏が書いた日本文学史が、今高い評価を得ているように、中国の人の書かれた日本文学史が望まれるのです。このテキストは、主に文学博士の崔香蘭先生と張蕾先生が執筆され、劉琳、楊瑞娜、王勝波、張紅艶、顔景義、周娜の諸先生方も編纂に参加して協力によ

ったものである。この共同作業によって、陽光の源である中国の人の目で見た日本文学史が出来上がっていくでしょう。

私は、長年日本で日本文学史——特に江戸文学史でしたが——を講じてきて、日本文学を読んでいくのに都合の良い分析方法を思いつきました。日本の文学史は、一般に古代(奈良)、中古（平安)、中世（鎌倉、室町)、近世（江戸)、近代（明治以降）と分類して記述されます。この中で、中世だけは少し長いのですが、それぞれが大体三百年の単位で推移しているのです。そしてこの三百年を百年ずつに割って、それぞれを前期、中期、後期と考えて、それぞれの特徴を考えて行くと面白い事に気付きます。前期は、新しいものが勃興してくる時、中期は、その時代の最盛期を形成する時、後期は、その時代が衰えて来る時と捕えると、大体大きな文学の流れを把握出来るように思うのです。近代は、未だ百年余りですから、これから最盛期を迎えると考えると良いのです。

この考え方は参考までの事ですが、日本文学史を見ていくのに案外有効ではないかと考えています。案外、日本だけではなくて、各国の文学の流れがこのようであるかもしれません。例えば中国でも、秦とモンゴル帝国を除きますが、大体三百年で王朝が交替していますから、文学の流れにも何か法則があるかもしれません。

ともあれ中国の人の手になる日本文学史が、ここに呱々の声を挙げました。これが起点となって、中国の人の見た日本文学史が、大きく実現されれば何よりの事と思うのです。

文学博士　横山邦治

2009年2月吉日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

本书由大连水产学院资助出版

目 录

序文 …… 1

総説 …… 1

第一単元　上代の文学

一、概観 …… 4

二、神話と伝承文学 …… 6

『古事記』『日本書紀』『風土記』

三、祝詞・宣命・氏文……12

祝詞と宣命・『高橋氏文』『古語拾遺』

四、詩歌 ……14

古代歌謡・『万葉集』『懐風藻』『歌経標式』

練習問題1 ……23

日本文学散歩1 ……27

第二単元　中古の文学

一、概観 ……31

二、詩歌 ……33

1. 漢詩と漢詩文

2. 和歌……『古今和歌集』・「三代集」・「八代集」・「私家集」・「歌論書」

3. 歌謡……『和漢朗詠集』『梁塵秘抄』

三、日記 ……41

『土佐日記』『蜻蛉日記』『更級日記』

四、随筆 ……46
『枕草子』
五、物語 ……49
1. 作り物語……『竹取物語』『宇津保物語』『落窪物語』
2. 歌物語……『伊勢物語』『大和物語』
3. 『源氏物語』
4. 『源氏物語』以降の物語…『堤中納言物語』
5. 歴史物語……『栄華物語』『大鏡』『今鏡』
六、説話文学 ……68
説話…『日本霊異記』『今昔物語集』
練習問題2 ……72
日本文学散歩2 ……76

第三単元　中世の文学

一、概観 ……79
二、和歌・連歌 ……82
1. 和歌……『新古今和歌集』・「十三代集」・『後鳥羽院御口伝』
2. 連歌……『菟玖波集』『水無瀬三吟百韻』『犬筑波集』
三、随筆・日記・紀行 ……91
1. 随筆……『方丈記』『徒然草』『歎異抄』
2. 日記・紀行……『十六夜日記』『とはずがたり』
四、物語 …… 102
1. 擬古物語……『住吉物語』『今とりかへばや』
2. 御伽草子……『一寸法師』『物くさ太郎』『鉢かづき』
3. 軍記物語……『平家物語』『太平記』
4. 歴史物語・史論書……『水鏡』『増鏡』
五、説話 …… 114
『宇治拾遺物語』『古今著聞集』

六、芸能・歌謡 …… 117
1. 芸能……能・狂言
2. 歌謡……小歌
練習問題3 …… 123
日本文学散歩3 …… 127

第四単元　近世の文学
一、概観 …… 133
二、小説 …… 135
1. 仮名草子……『醒睡笑』
2. 浮世草子……『好色一代男』
3. 読本……『雨月物語』『南総里見八犬伝』
4. 洒落本……『遊子方言』『通言総籬』
5. 滑稽本……『東海道中膝栗毛』『浮世風呂』
6. 人情本……『春色梅児誉美』
7. 草双紙……『金々先生栄華夢』『修紫田舎源氏』
三、俳諧 …… 154
1. 貞門……松永貞徳
2. 談林……西山宗因
3. 蕉風と松尾芭蕉……『奥の細道』
4. 天明の俳諧……与謝蕪村
5. 幕末の俳諧……小林一茶
四、川柳・狂歌 …… 163
1. 川柳……『柳多留』
2. 狂歌……上方狂歌・天明狂歌
五、芸能 …… 165
1. 浄瑠璃……『曽根崎心中』
2. 歌舞伎……『三人吉三廓初買』

六、和歌・漢詩文 …… 171
1. 和歌と国学……契沖・本居宣長・良寛
2. 漢詩文と儒学……荻生徂徠・頼山陽
練習問題4 …… 174
日本文学散歩4 …… 178

第五単元　近現代の文学

一、近代文学の出発（明治元年～明治二十年代） …… 181
1. 概観
2. 啓蒙思潮期……戯作文学・政治小説・翻訳小説
3. 写実主義……坪内逍遥・二葉亭四迷・言文一致運動
4. 擬古典主義……尾崎紅葉・幸田露伴・硯友社
5. 前期浪漫主義……北村透谷・樋口一葉・泉鏡花・悲惨小説・観念小説
練習問題5 …… 198
日本文学散歩5 …… 200
二、近代文学の成立（明治三十年代～明治四十年代） …… 202
1. 概観
2. 自然主義……島崎藤村・田山花袋・私小説
3. 後期浪漫主義……『明星』『スバル』
4. 余裕派……森鷗外・夏目漱石
練習問題6 …… 216
日本文学散歩6 …… 219
三、近代文学の成熟期（大正年間） …… 221
1. 概観
2. 耽美派……永井荷風・谷崎潤一郎
3. 白樺派……武者小路実篤・志賀直哉・有島武郎
4. 新思潮派……芥川龍之介・菊池寛
5. 奇蹟派……葛西善蔵
練習問題7 …… 237

日本文学散歩7 …… 239
四、昭和文学の展開（大正末期～昭和十年代） …… 241
1. 概観
2. 新感覚派……横光利一・川端康成
3. プロレタリア文学……葉山嘉樹・小林多喜二
4. 新興芸術派……井伏鱒二・梶井基次郎
5. 転向文学……中野重治
練習問題8 …… 258
日本文学散歩8 …… 261
五、戦後文学の発展（昭和二十年代～昭和三十年代） …… 263
1. 概観
2. 民主主義文学……宮本百合子
3. 無頼派……太宰治・坂口安吾
4. 戦後派……野間宏・三島由紀夫・安部公房
5. 第三の新人……吉行淳之介・遠藤周作
練習問題9 …… 282
日本文学散歩9 …… 284
六、近代詩歌（明治元年～昭和三十年代） …… 286
1. 概観
2. 近代詩……北原白秋・高村光太郎・萩原朔太郎・宮沢賢治
3. 近代短歌……与謝野晶子・石川啄木・斉藤茂吉
4. 近代俳句……正岡子規・高浜虚子
練習問題10 …… 303
日本文学散歩10 …… 306

附录　日本文学史年表
◎日本古典文学史年表 …… 308
◎日本近代文学史年表 …… 312
参考书目 …… 315

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

総　説

日本文学史は、一つの芸術作品がどんな原因で、またどんな経路を経て、どんな社会的なつながりをもってできあがったかをみきわめるところに重点が置かれる。さらにその作品と同時代の他の作品との関連や、またその前代・後代というような縦のつながりなども問題になってくる。これらの事を要約してできあがったのが本教科書である。

本教科書は、特に一般教養を高める意味においても重視されていることは見逃すことができない。これらは単に文学史としての孤立の系統知識を与えるだけでなく、文学史が真に生かされて、青年生徒の人間形成に大きな力をもつことを願うのである。

日本文学史の時代区分には、いろいろな区分法があるが、本教科書では一応、政治史的時代区分に、その他の社会状勢の変化を考えあわせ、文学史独自の時代区分として次の名称で統一することにした。

1．上代（大和・奈良時代）（～延暦十三年〈794〉）

この時代は、藤原京や平城京など、主として大和地方（今の奈良県）に政治・文化の中心が置かれていた時代の文学を意味する。この時代は有史以前の氏族社会の時代を経て、中央集権制度が確立し、律令の制定によって天皇の権威は絶大

となり、やがて唐制にならって、規模の広大な都城が現在の奈良市周辺につくられた。これ以降奈良文化（飛鳥文化をへて、白鳳・天平文化）は、唐代文化の模倣や刺激によって「咲く花の匂ふが如く」栄えた。しかし奈良朝末期になると、僧侶と貴族間の政治的暗闘が律令国家に暗影をなげるにいたり、ついに和気清麻呂（わけきよまろ）の奏言にもとづいて桓武天皇の延暦十三年（794）平安遷都が決行された。

2．中古（平安朝時代）（延暦十三年〈794〉～建久三年〈1192〉）

この期間は平安遷都から、鎌倉幕府の成立のころまでの、約四百年間を中古とする。主として、権威を確立した藤原氏を中心とした平安京の貴族たちを担い手とする文学である。

3．中世（鎌倉、南北朝、室町、安土、桃山時代）（建久三年〈1192〉～慶長八年〈1603〉）

この時代は、源頼朝が鎌倉に幕府を開設し、征夷大将軍となった建久三年あたりから、徳川家康が天下を統一し、江戸に幕府を開いた慶長八年ころまでであるが、宮廷を中心とする文学が衰え、あいつぐ戦乱のため隠遁者である僧侶の手に文学がゆだねられ、さらに下って室町幕府の保護によって栄えた文学などが代表する約四百年間をさす。

4．近世（江戸時代）（慶長八年〈1603〉～慶応三年〈1867〉）

この時代は三期に分けられる。第一期は新興都市大阪を中心とした町人階級の勢力が伸張し、西鶴の浮世草子、近松の浄瑠璃、芭蕉の俳諧などで代表される元禄文学の全盛期を

さし、第二期は文運東遷期で、第三期は文化・文政のころの江戸を中心とした文化の爛熟期である。この期間は、表面上は武士階級が社会の中心を掌握していたが、文学はようやく一般庶民の手に移り、町人文化の黄金時代をつくりあげた。

5．近現代（明治・大正・昭和・現在）（明治元年〈1868〉～現在）

日本歴史上の大変革期であった明治元年より、大正・昭和・現在までをさす。この時代は西洋の思想文化に影響された文学によって発足し、世界性を帯びているのが特色である。

時代区分表

時代区分	政治史的	支配階級の移動	精神史的
上代	大和時代～奈良時代	貴族文学の時代	（感情）情中心時代
中古	平安時代		
中世	鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代	武家文学の時代	（仏法）法中心時代
近世	江戸時代	町人文学の時代	（儒教）道中心時代
近現代	明治・大正・昭和時代	市民文学の時代	（文芸主義）主義中心時代

第一単元　上代の文学

一、概　観

文学の誕生から、延暦十三年の平安遷都（794）のころまでを上代とする。共同体、小国分立の時期を経て大和政権による全国統一になり、律令国家が成立する時代である。政治・文化の中心は、飛鳥・藤原京・平城京など主に大和地方（奈良県）にあったので、大和・奈良時代ともいう。また、六世紀末以降繁栄した文化は、飛鳥文化・白鳳文化・天平文化とも呼ばれる。

人々がまだ文字を持たなかったころ、文学的言語は、まず、神を祭り、祈る神事を基盤として発生・成長した。古代には、言葉は霊力を持つ（言霊信仰）と信じられていたため、神事の際に発する言葉（呪詞）は神聖なものとして、次第に形を整えられ、祝詞（神のお告げや神への祈願）、宣命（和文で書かれた詔勅）等に発展した。また、神々や祖先の物語は神話・伝説・説話となり、祭祀・農耕の集団の場で発生し、上代歌謡として発達していった。これらは、長い年月、口から口へと語り継がれていった。

四世紀頃には大和朝廷による国家統一がなされた。四世紀後半からは朝鮮半島や中国大陸との交流が始まり、大陸文化の摂取が盛んになり、六世紀中頃に伝わった仏教は文化面

に大きな影響を与えた。七世紀からは遣隋使・遣唐使らの活躍で朝鮮及び中国の文物・文化・制度等が日本にもたらされ、やがて律令制が整えられて中央集権国家が実現するに至った。その担い手となったのは、改革の基礎を築いた聖徳太子、大化の改新を断行した中大兄皇子や中臣鎌足、壬申の乱の後、律令国家の完成に努めた天武天皇などである。大陸文化の摂取が盛んに行われる中で、とりわけ漢字の伝来は大きな意味があった。漢字の伝来によって文学は口承から記載の時代へと移り、日本語を表記するために、漢字を表音文字として利用した万葉仮名や、宣命書きなどが発明された。また、仏教は、聖徳太子によって国家の保護を受け、人々の間に浸透していった。

大和朝廷は国家の体制も、中国にならってそれまでの氏族制から、天皇の権威を絶対とする中央集権的な律令体制へと改変し、その一環として、皇室中心の系譜の中に諸氏族を位置づけた。『古事記』『日本書紀』等の史書や、『風土記』の地誌の編纂が進められた。

『日本書紀』は編年体の史書で、六国史のはじめにあたる。

大陸文化の影響や、文字の発達にも助けられて、集団的な歌謡に代わって「和歌」が作られるようになった。舒明朝のころから盛んになり、持統・文武朝ころには長歌・短歌の形式がほぼ完成した。『柿本人麻呂歌集』『類聚歌林』等の歌集も編まれ、奈良朝の末にはこれらすべての集大成ともいうべき『万葉集』が編纂された。また、天智朝のころから漢詩文も盛んに作られるようになり、漢詩集『懐風藻』が編纂さ

れた。

このほか、奈良朝末期から平安朝初期にかけて、私的な伝承も記され、『高橋氏文』や『古語拾遺』等が成立した。

✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤✤

脚注

【言霊】言葉に宿っている不思議な霊威。上代、その力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じられた。

【大化の改新】大化元年（645）夏、中大兄皇子を中心に、中臣鎌足ら革新的な朝廷豪族が蘇我大臣家を滅ぼして開始した上代政治史上の大改革。地方行政権の朝廷集中、班田収授法の実施、税制の統一などを断行。

【壬申の乱】天智天皇死後、長子の大友皇子を擁する近江朝廷に対し、吉野にこもっていた皇弟の大海人皇子（天武天皇）が672年（壬申の年）の夏に起こした反乱。一ヶ月余の激戦の後、大友皇子は自殺。大海人は皇位に即位し、律令制が確立する端緒となった。

二、神話と伝承文学

上代の日本民族は、はじめことばを表記する方法を知らなかった。集団農耕を営みながら、外界に広がる自然の中で、超人間的な力の表れを見出し、それを神の力として恐れ敬い、神を祭ることで、その生活の場である共同体の安定をはかろうと試みたのである。祭りの場における神に関わるさまざまな語り伝えが神話である。神話は、本来祭りの場における神聖な〈語りごと〉として存在したので、口頭伝承（口承）として語り伝えられた。しかし、七世紀の初め頃、大陸から漢

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com